

降り積もった雪も柔らかな光に溶けだし、だんだんと力強い春の気配を感じるようになりました。

本日は私達のためにこのような形にはなりましたが、卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。

春には鮮やかな緑、秋には金色に輝く銀杏の葉、夏には暑さで倒れそうになり、冬には凍って歩みにくい道。私達に季節を感じさせてくれた潮陵坂ともついに別れの日がやってきました。あっという間の高校生活で、入学式がついこの間のことの様に鮮明に思い出されます。三年前の私達は、想像以上の自由な校風に驚きながらも、のびのびと学校生活を送りました。先輩方は一二年違うだけで大人に見え、憧れ、必死で追いかけた日々を思い出します。

三年生になると、何に対しても最後ということを意識するようになりました。最後の潮陵祭。企画代表、委員会、クラスの雰囲気盛り上げる人。一人一人がどこかの場面で活躍し、高校生活の集大成とも言える行事であったと感じます。高校生活最後の年というのは、寂しさはもちろんありましたが、その分毎日に全力投球でした。周りの友人達が将来について考え出し、その姿は非常に勇敢で、輝いて見えました。以前、受験勉強は周りとは連絡を絶ち、一人でするのが良いというのを聞いたことがあります。しかし、私はそれは違うと感じてしまいました。受験でも、他のことでも、弱音を吐きたくないことはあります。そして、その中には、同じ高校三年生同士にしか理解し得ないこともあるのです。辛いことも、励まし合ううちになんだか前向きになる。それも仲間のおかげでした。いつか、この三年間を懐かしい思い出として語り合うことができる日を楽しみに、それぞれの道を、時に立ち止まり、考え、必要なら戻りつつも、思い描く未来に向かって力を余すことなく発揮し、進んでいきたいと思います。

最後になりますが、いつも私たちを見守ってくださった地域の方々、どうもありがとうございました。いつも私達を心配し、手を差し伸べてくださった先生方、どうもありがとうございました。特に進路で悩んでいた時期に先生方の愛を感じたのは私以外にもたくさんいることと思います。また、いつも健康を第一に考えてくれた家族、感謝しています。私達の高校生活を支えてくださった全ての方々とその出会いに感謝申し上げ、答辞と致します。

令和二年三月二日
卒業生代表 山田陽香